

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 7 部門第 2 区分

【発行日】平成 20 年 9 月 11 日 (2008.9.11)

【公開番号】特開 2007-12680 (P2007-12680A)

【公開日】平成 19 年 1 月 18 日 (2007.1.18)

【年通号数】公開・登録公報 2007-002

【出願番号】特願 2005-188285 (P2005-188285)

【国際特許分類】

H 0 1 F 27/29 (2006.01)

H 0 1 F 27/06 (2006.01)

【F I】

H 0 1 F 15/10 C

H 0 1 F 15/02 F

【手続補正書】

【提出日】平成 20 年 7 月 24 日 (2008.7.24)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

配線パターンを形成した複数のグリーンシートと無地の複数のグリーンシートとを積層した構成をなし、その正形状の底面にのみ複数の端子電極が設けられている積層インダクタであって、

前記端子電極は各側面側の周縁に、前記底面の中心に対して 90 度回転対称位置にそれぞれ設けられており、対向する端子電極はそれぞれ同方向に 90 度回転した位置に設けられた端子電極と積層体内部の配線によって接続されていることを特徴とする積層インダクタ。

【請求項 2】

配線パターンを形成した複数のグリーンシートと無地の複数のグリーンシートとを積層した構成をなし、その正形状の底面に複数の端子電極が設けられている積層インダクタにおいて、

4 個の前記端子電極が前記底面の中心に対して 90 度回転対称位置に設けられており、対向する 2 個の端子電極それぞれは同方向に 90 度回転した位置に設けられた端子電極と接続されていることを特徴とする積層インダクタ。

【請求項 3】

前記端子電極間の接続は、積層体内部の配線でなされていることを特徴とする請求項 2 に記載の積層インダクタ。

【請求項 4】

前記配線が前記底面の中心に対して 180 度回転対称位置にそれぞれ設けられていることを特徴とする請求項 1 又は 3 に記載の積層インダクタ。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0012

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0012】

本発明に係る積層インダクタは、配線パターンを形成した複数のグリーンシートと無地の複数のグリーンシートとを積層した構成をなし、その正形状の底面にのみ複数の端子電極が設けられている積層インダクタであって、前記端子電極は各側面側の周縁に、前記底面の中心に対して90度回転対称位置にそれぞれ設けられており、対向する端子電極はそれぞれ同方向に90度回転した位置に設けられた端子電極と積層体内部の配線によって接続されていることを特徴とする。

【手続補正3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0017

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0017】

本発明に係る積層インダクタは、上記構成において、前記端子電極間の接続は、積層体内部の配線でなされていることを特徴とする。

本発明に係る積層インダクタは、上記構成において、前記配線が前記底面の中心に対して180度回転対称位置にそれぞれ設けられていることを特徴とする。